

基町小学校の 幼保小連携

広島市立基町小学校
谷花 左江子



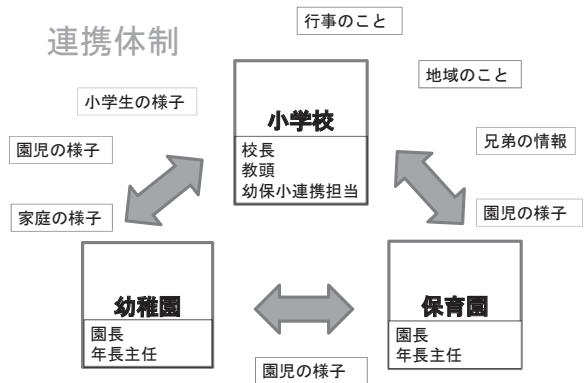
本日の実践内容

- 幼保小連携の充実
- 基町小学校の実態
- 4月からの実践
- 成果と課題

連携作りの具体例

- 幼稚園・保育園に、気軽に行ける雰囲気作り
- 連携会議
- 「絵本一冊もっていきましょう」運動
- 行事の情報交換
(無理やり日程調整をしない)
- 幼保小連携の情報を公開して共有する。

連携体制



幼保小連携のいいところ 教員編

小学校職員が保育について知る。

- ・子どもたちが、保育園や幼稚園で身につけてきた力を知る。
- ・保育で身につけた力を踏まえて、教育活動を行うことができる。
- ・低学年児童との関わり方のスキルアップをすることができる。
- ・就学前から児童の様子を掴むことができる。
- ・一人一人に合わせた対応を想定することができる。

幼稚園教諭や保育士が

- 小学校教育について知る。
- ・小学校入学へ向けてどのような力をつけたいかが明確になる。
- ・園児の小学校入学へ向けての不安を軽減し、安心や期待をもたせることができる。
- ・就学後の児童の姿を知ることで、職員の保育の質の向上へと繋がる。

幼保小連携のいいところ 児童・幼児編

小学生

- ・他学年児童の自分達に対する接し方を学び、年長児の先輩として、教える立場を経験する。
- ・幼稚園・保育園の先生に1年生としての姿を見てもらうことで、自分の成長を確認することができる。
- ・学校生活の中で、いろいろな人と関わっていく力を付けることができる。

幼稚園児や保育園児

- ・小学校入学に向けて意欲を持つことができる。
- ・小学校入学に向けての不安を軽減し、安心や期待をもつことができる。
- ・園の中で先輩として頑張ることができる。

基町小学校の特色

- 通学路に信号が無く、基町アパートから学校の敷地内に続く同じ通路を歩いて登校してくる。（学区外から来る児童は除く）
- ほとんどが、基町保育園からの就学児である。
- 幼稚園、保育園が同じ敷地内にある。



- 全校生徒は、104人。
- 各学年、1クラス編成。
- 全校生徒の64%が外国にルーツを持つ児童である。
- 校内に日本語教室がある。

故に・・・

- ・日本の文化や日本語に触れる機会が少ない。
- ・園や学校と保護者との連携が難しい。
- ・大きな集団を経験する機会が少ない。
- ・小さなコミュニティにおいて、登校する距離が近く、外遊びをする場所も限られている。
- ・習い事などいろいろなことを体験する環境にいる児童が少ない。

基町小学校区の課題

- 『言葉』によるコミュニケーションの不足
- 遊びの経験が少ないことによる体力不足
- 生活経験の不足

1年間を通して

- 学校の中で先輩から学んだ姿勢を年長さんへ伝える。→自分たちの成長を感じられる。
- 体験から分かったことや気持ちを、自分の言葉で伝える。
- 基町ならではの連携の形を作る。
- 小学校からのアプローチだけではなく、幼稚園、保育園のねらいや大事にするところを共有する。
- 児童が先輩として頑張る気持ちを引き出す。



『言葉』によるコミュニケーションの不足
に対する取組①

読み聞かせ

小学校から保育園、幼稚園へ



保育園から
小学校へ

幼稚園から小学校へ



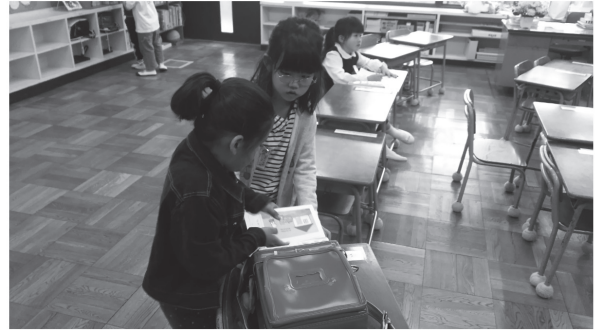
コミュニケーションの不足に対する取組②

6年生から学ぶこと





2年生も先輩として頑張る



1年生が幼稚園・保育園へ伝えていくもの



体力づくり

体力づくりのための取組①

リレーごっこ

